



応用情報技術者試験対策講座 ～資格概要から講座の特長～

応用情報技術者試験とは

「応用情報技術者試験」は、情報処理推進機構（IPA）が実施するIT系の国家試験です。IPAによれば、「ITを活用したサービス、製品、システム及びソフトウェアを作る人材に必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」が試験の対象者像です。つまり、試験に合格すれば、一定以上の実務経験を持ち、体系化された知識を有するレベルの高いエンジニアであることが証明できるわけです。

試験は「午前」と「午後」に分かれ、「午前」は多肢選択式80問、「午後」は記述式11問のうち5問解答という形式です。特徴は「午後」で、セキュリティやプログラミング、ネットワークといったテーマの数ページに及ぶ長文を読んで、最大40字程度で解答を記述させるような出題もあり、出題範囲に関する知識だけでなく、読解力と言語化能力が求められる難易度の高い試験になっています。

講師紹介



丸山紀代（まるやまのりよ）先生

JavaやPythonといったプログラミング研修から、基本情報や応用情報といった資格試験研修まで、「イメージを使った解説でわかりやすい」と評判の超実力派IT講師。

システム開発会社で組み込み系やWebアプリケーションの開発に携わったあと、IT研修会社勤務を経て独立し、現職。著書に『この1冊で合格! 丸山紀代のITパスポート テキスト & 問題集』（KADOKAWA）がある。

受講対象者の方

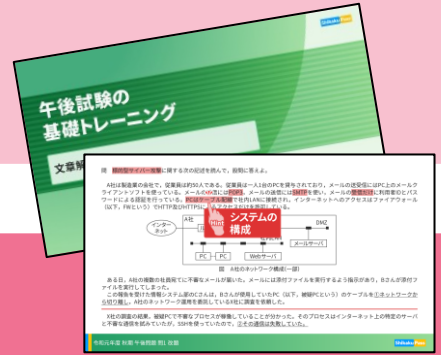


基本情報に合格している、
あるいは実務経験が数年あり、
すでに知っていることを繰り返す
ような学習はしたくない！

応用情報に挑戦したことがあり、
午前は合格したが午後はダメで、
午後対策をどうすればよいか
わからない！



講座の特長



基本情報からの 差分学習法

基本情報技術者試験の学習が済んでいれば、応用の参考書をゼロから読む必要はありません。本講座の要点まとめプリントと過去問を使って、基本情報と応用の差分だけ学習しましょう。

基本情報の 復習教材つき

基本情報の出題範囲をカバーした復習教材で、基本情報の学習をしたことがない人ももちろん大丈夫。基本情報合格者と実務経験者は復習教材をショートカットしたり、ピンポイントで見直したりすることも可能です。

論点抽出 解答言語化 トレーニング

応用のキモは午後試験の長文・記述式問題ですが、いきなり過去問に挑戦しても問題は解けません。まずは、長文から問題の論点を抽出し、記述式の解答としてまとめる言語化トレーニングを実践しましょう。

一挙手一投足 午後の解き方 実況中継

論点を抽出し、解答を言語化するトレーニングが済んだら、総仕上げです。本講座の監修者である丸山先生が午後試験の問題を解いていく思考過程を、動画で実況中継します。

主な教材の種類



対策範囲	教材	個数
応用情報試験の午後対策	試験の特徴と解き方動画	2本
	基礎トレーニング動画	4本
	基礎トレーニング問題演習	20問
	過去問演習	33問
	過去問実況中継動画	12本
	問題用紙・解答用紙	69問
応用情報試験の午前対策	要点まとめプリント	9本
	過去問演習	312問
基本情報試験の復習	レクチャー動画	70本
	過去問演習	192問
	過去問演習解説動画	48本

午後対策教材の特長

午後の問題を解くスキルを習得する学習フロー

基礎トレーニング動画

過去問の長文を圧縮した独自問題で、問題文の長さに惑わされず、解くスキルを効率的に訓練。

基礎トレーニング問題

動画で解くスキルを学んだら、同じく独自の圧縮問題でスキルを実践で繰り返し、ブラッシュアップ。

過去問演習

解くスキルを身につけたら、過去問の長い問題文そのものにチャレンジする最終段階。まず、過去問を解く。

過去問実況中継動画

問題を解く様子をリアルタイムで解説する動画を見て、解くスキルと解答の答え合わせ。あとは繰り返し。